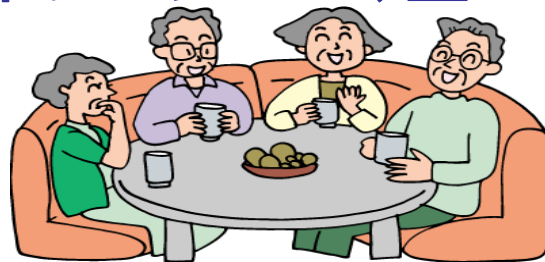


数 値 目 標（10年後の平成25年度において） 《家庭系》

家庭系 1 人 1 日あたりのごみ排出量を853 g から775 g にします
(9%減)

リサイクル率を22%から35%にします

資源ごみを除く家庭系 1 人 1 日あたりのごみ量を664 g
から504 g にします (24%減)



《事業系》

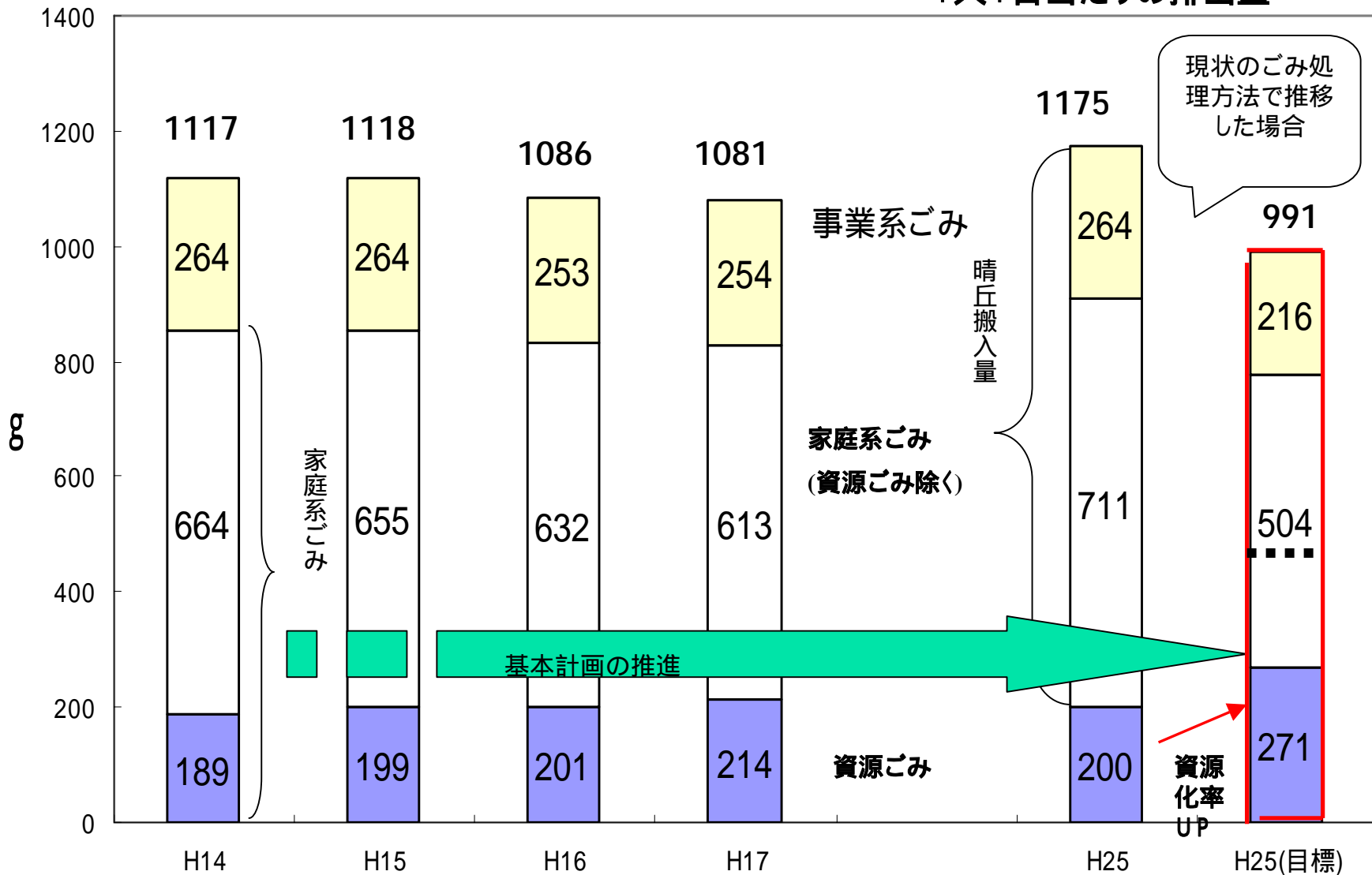
事業系ごみ量を 年間24,300t から21,800t にします (9%減)

《家庭系 + 事業系》

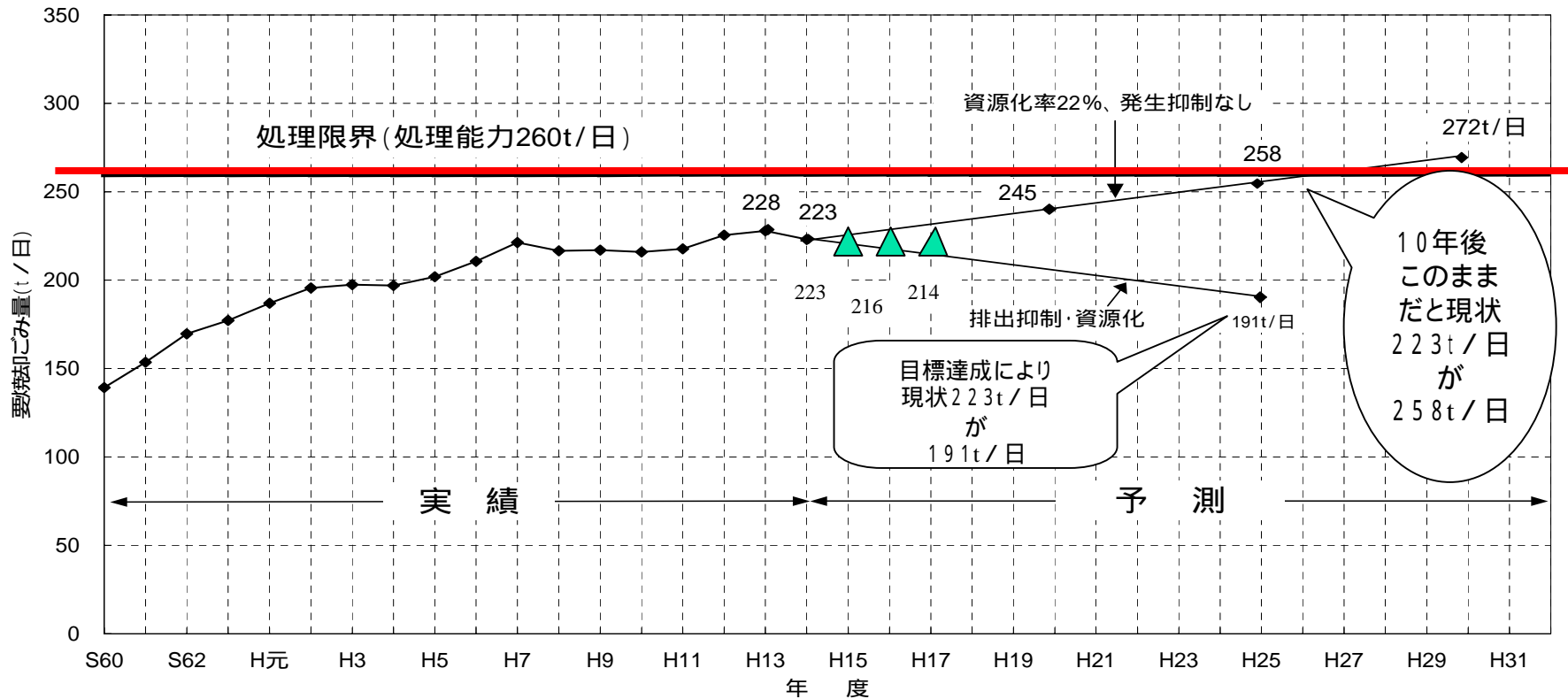
資源ごみを除く事業系を含めた 1 人 1 日あたりのごみ量を928 g
から720 g にします (22%減)

数値目標

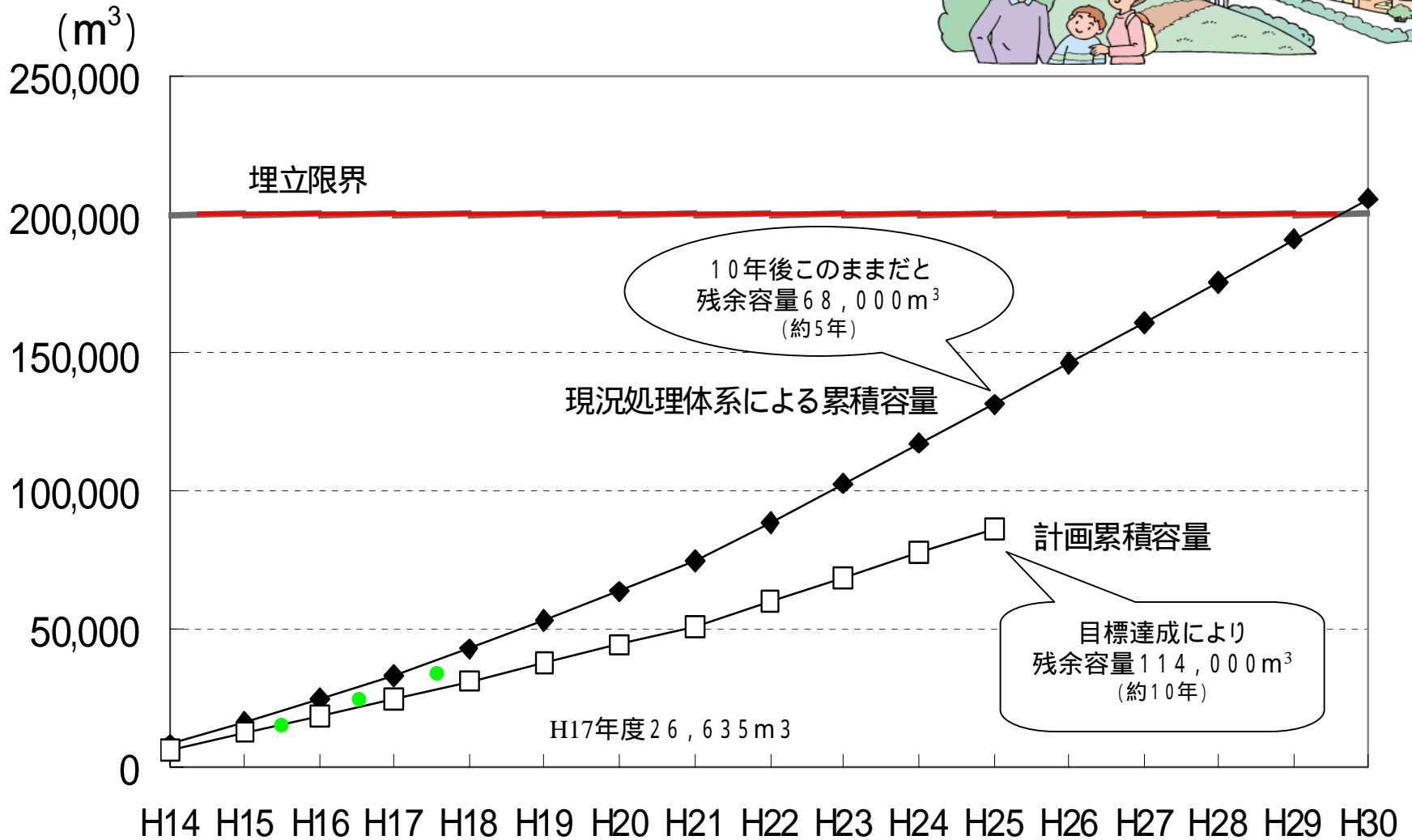
1人1日当たりの排出量



ごみ焼却量予測と処理能力



最終処分場における累積埋立量



現在、私たちが使用している最終処分場の 寿命は後、10数年です！

また、ごみ処理施設についても莫大な予算が掛かります。



収集されたごみは焼却後
最終処分場に埋め立てされる。

…でも私たち一人一人の努力で
この寿命を延ばすことができます。



簡単で便利、使い捨ての暮らし をこのまま続けていけば・・・

- 増えつづけるゴミ・・・
- 環境の汚染・・・・・・・・

自然界の法則に従い、水・大気・土壌を
巡り再び私たちの元に還ってきます。

最近の暮らしの中で気候や災害のかたちが
変わって来ていると感じませんか？

温暖化 変わる日本

名古屋市中区の名古屋城で、白梅と紅梅がちらほら咲き始め、春の香りを漂わせている＝写真＝。開花は昨年より1週間ほど早い。

城内に植えられた約200本の梅のうち、十数本が花を開き始めた。27日の名古屋市の最高気温は9.6度と、平年より1.2度高かった。風も弱く、訪れた人たちは春の訪れを感じ取っていた。見ごろを迎えるのは、2月中旬から下旬になりそう。

梅開花1週間早く 名古屋

項目	内容
気温	20世紀の100年間で、平均気温が1度上昇。東京では2.9度上昇
海	30年間で海面水位が6センチ上昇
サクラ	ソメイヨシノの1989～2000年の開花日は平年より3.2日早く
将来予測	21世紀後半は真夏日は70日増加し、雨量は19%増加 (国立環境研究所まとめ)

地球温暖化による日本国内の影響

国立環境研究所が予測

気候の変化では、二十世紀の百年間で、気温が全国平均で1度上昇。ヒートアイランド現象の影響も加わった都市部での上昇が顕著で、東京では2.9度上がった。雨量は、地域ではらつきがあるものの、一時間に五十ミリを超える豪雨の発生件数が増えた一方、降雪量が減少した。

動植物への影響では、サクラ(ソメイヨシノ)の全開八十九地点の開花日が、降は関東でも確認された。

サクラの開花が平年より三日早まり、東京の平均気温が百年間で3度近く上昇したことなど、日本の温暖化の現状が、独立行政法人国立環境研究所が二十七日まとめた地球温暖化が日本に与える影響で示された。同研究所や他の機関のこれまでの調査結果を集約したもので、今後、日本の温暖化に関する基本データとなる。生態系や市民生活への影響のほか、今世紀後半に真夏日が今より七十日程度増えるといった予測も盛り込まれている。来月一日から英国で開かれる気候科学会議で報告される。

真夏日は70日増加

夏の気温4.2度上昇

今世紀後半に

一九八九～二〇〇〇年の平均で、平年(一九七二～二〇〇〇年)より三・二日早くなった。逆にイロハカエデの紅葉日は、この五十年間で二週間遅くなった。北海道・日高山脈のアポイ岳では常緑のハイマツやキタゴヨウなどの生育高度が上昇し、北海道固有種である高山植物ヒタカソウが激減している。

鹿児島県・屋久島が北限だったアオウミガメは、同県本土や宮崎県でも産卵・ふ化を確認。熱帯の海に生息するテールサンゴの一種エンタクミドリシが熊本・天草沖でも見つかつた。昆虫では九州四国が北限だったチカサキアゲハも増えていく。

地球温暖化に歯止めをかけるため、先進国に温室効果ガスの排出削減を義務付けた京都議定書が二月十六日に発効する。日本政府も一九九〇年比マイナス6%の目標達成に向け、対策を進めてきたが、二〇二〇年度の排出量は逆に7.6%も増えている。

将来予測では、二十一世紀後半の日本の夏は、一日の平均気温が二十世紀後半より4.2度上昇、真夏日は七十日程度増え、雨量も19%増加すると予測。気温が3度上昇すれば、雪不足でスキー客は30%減少するとしている。





写真提供：緑のサヘル ブルキナファソ

降雨不足により干上がる沼。灌漑設備や農機具、化学肥料等投入の少ないサヘル地域では、天然降水に依存しており、降雨量が多ければ平年作、少なければ凶作を意味する。このように降雨不足は飢餓に直結している。(緑のサヘル)



干天のため枯死した葉タバコ(滋賀県野州郡中主町:彦根地方気象台撮影)
(1994.9.13,気象庁)



Photo credit: Institute for Sustainable Energy Policies

スイス、アルプス氷河。永久に残る氷河と言われていたが、ここ数十年をかけて溶け、植生が変化し、山肌が下から次第に樹で覆われ始めている。2001・6・29

(環境エネルギー政策研究所)

アルゼンチンにて撮影。アンデスから崩落するペリト・モレノ氷河。地球温暖化によって氷河が滑り落ちる速度が早くなったと言われている。
(2002.1.1, 栗林浩)



写真提供: 2002年元旦アルゼンチンにて 栗林浩撮影



Photo credit: Masaaki Nakajima

融けだした氷河の影響で水位が上がり陸地が無くなっていく・・・

もしも・・・ではなく
私たちの現実です。



沈みゆく島、ツバルフナフチ（首都）の現在の様子

写真掲載については全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより引用しました。



今の、私たちにできることは

もったいない精神で・・・物を長く大切に使いきる。

過剰包装は断る。

資源になるものは分別をする・・・など。

今一度、私のごみ袋の中身を見直してみませんか

燃えるごみの中に資源の「雑がみ」が入っていませんか？



実態を知るための調査(尾張旭市)



可燃ごみ組成比率調査
調査期間(平成18年11月24日~30日)

可燃ごみに(資源の紙・布)が沢山入っている事が分かりました。

	平成16年度平均値	
	乾きベース %	湿りベース %
紙・布類	43.1	39.5
プラスチック・ゴム類	26.3	20.5
草木・わら類	13.6	15.9
厨芥類	12.2	20.4
不燃物類	2.2	1.4
その他	2.6	2.3
合計	100.0	100.0

平成16年度可燃ごみの組成分析結果

